

# 水稲の初期生育確保に向けた管理対策（臨時号）

令和7年4月11日  
新潟県農林水産部

## 〔気象予報〕

- ◎ 3月25日発表の3か月予報（4月から6月）では暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は平年並みか高いと予想されています。4月10日発表の1か月予報（4月12日から5月11日）では、気温は高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みか少ないと予想されています。

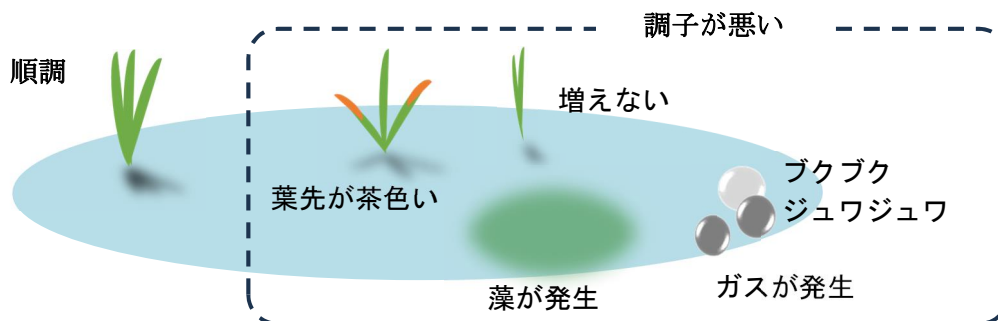
## 〔今後の管理対策のポイント〕

- ◎ 育苗期間が高温の場合は苗の生育が早まるので、田植予定の前倒しや弁当肥の施用など、老化苗での移植とにならないよう対策をとりましょう。
- ◎ 育苗時の温度管理を徹底し、健苗育成に努めましょう。苗ヤケ防止には高温対策被覆資材の使用が有効です。
- ◎ ほ場に「ひこばえ」\*1や雑草が多い場合は、分解の早い有機物が多くすき込まれ、高温・多照となった場合に「ワキ」\*2が多く発生します。「ワキ」の発生による初期生育の停滞が見られたら、夜干し等で一時的に落水（ガス抜き）し、根腐れや生育停滞を防止しましょう。
- ◎ 一時的に落水する場合は、除草剤の効果を維持するため、田面を乾かさない程度としましょう。

\*1 稲刈りをした後の刈株から再生した稲のこと。

\*2 「ワキ」：稲わらなどの分解に伴い、作土からガスが発生すること。

## 稲や田の状況から落水を判断するめやす



苗の活着、分けつが遅い場合は、  
田面が乾かない程度に落水しましょう。